

## 今週の為替相場見通し(2021年1月4日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		102.97 ~ 103.89	103.32	102.30 ~ 104.00
ユーロ	(ドル)		1.2179 ~ 1.2310	1.2218	1.2100 ~ 1.2350
(1ユーロ=)	(円)		126.05 ~ 127.17	126.22	125.00 ~ 127.00
英ポンド	(ドル)		1.3429 ~ 1.3686	1.3662	1.3570 ~ 1.3800
(1英ポンド=)	(円)	*	139.48 ~ 141.26	141.06	140.30 ~ 143.00
豪ドル	(ドル)		0.7559 ~ 0.7743	0.7693	0.7600 ~ 0.7800
(1豪ドル=)	(円)	*	78.48 ~ 79.79	79.47	78.50 ~ 80.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1)今週の予想レンジ: 102.30 ~ 104.00 円

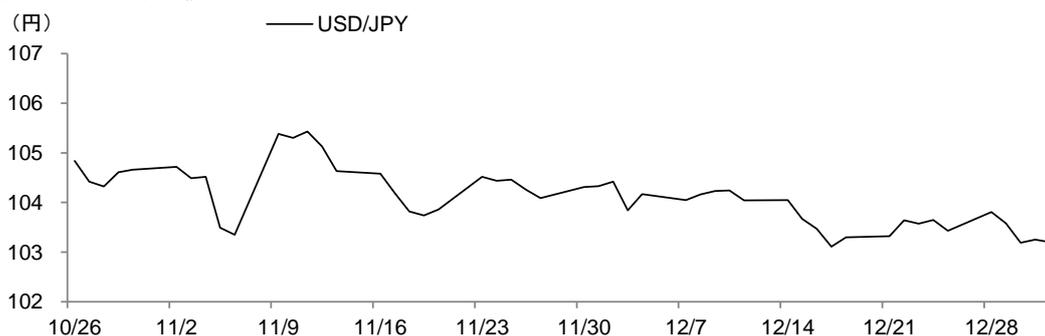
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は、週初につけた103.89円を高値とし、その後じりじりと値を下げる展開。週初28日のドル/円は103.52円でオープン。トランプ大統領が米追加経済対策に署名したとのヘッドラインがあり、政府閉鎖が回避されたことから、リスクオンの円売りが強まり一時103.89円まで上昇。しかし104円手前での売り圧力に押され、下落した後は狭いレンジでの値動きに留まり、103.79円でクローズ。29日は仲値にかけて103.81円まで上昇したが、その後は月末の実需の売りフローに、対ユーロでのドル売りも相まって一時103円台前半まで下落。米国時間には、トランプ大統領が個人給付金金額の引き上げに反対したとの報道から、株式市場が軟化する動きを見せたが、ドル/円の反応は鈍く、103円台半ばでクローズ。30日は本邦勢の実需のドル売りを中心にじりじりと下落後、イギリスや中国でのワクチン承認報道を好感したリスクオンの動きにさらにドル売りが強まり、一時週安値の102.97円まで下落。その後やや買戻しが入り、103円台前半でクローズ。31日は年末ということもあり、特段の取引材料のない中、市場参加者も少なく、一日を通して狭いレンジ内での値動き。一時ドル売りが強まる場面も見られたが、その後は方向感なく推移し、103.32円で越週した。

今週のドル/円は、104円付近を節目として上値の重い展開を予想する。米追加経済対策合意、英とEUの通商協定合意等、市場にとってポジティブな取引材料は一旦出尽くした感がある一方で、新型コロナウイルス変異種の全世界的な拡大や5日に予定されているジョージア州の決選投票の結果次第での民主党による増税リスク等、ネガティブな材料が出てきており、場合によってはリスクオフの円買いが強まる恐れがある。また、先週も104円にトライすることなく下落していることから、104円手前での売り圧力は相当強いと思われる中、ドルの過剰感に伴う全通貨でのドル売りの流れも一服はしておらず、引き続き上値が重い展開が継続すると想定される。来週の主な経済指標として、4日(月)に米製造業PMI確報、5日(火)に米ISM製造業景況指数、7日(木)に米ISM非製造業景況指数、8日(金)に米雇用統計の発表が予定されている。ここ最近では経済指標の数値に為替の反応は鈍いことが多いが、結果次第でのボラタイルな値動きには留意したい。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/28~1/1)の値動き: 安値 102.97 円 高値 103.89 円 終値 103.32 円



## 2. ユーロ

(1)今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2350 125.00 ~ 127.00 円

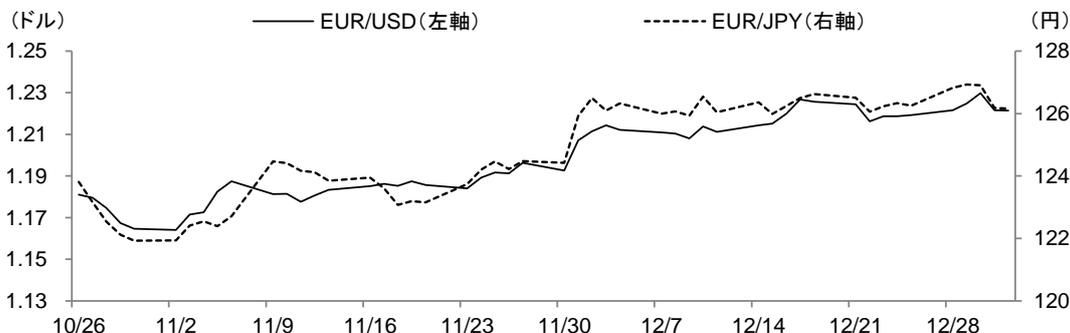
### (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場はじりじりと上昇し、下落する展開となった。週初28日、1.22台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米追加経済法案への大統領署名を背景に進んだリスクオンの流れを受けて、ユーロ買いの展開になり1.22台半ば付近まで上昇。しかし、新型コロナウイルス変異種の感染拡大を懸念した債券売りに連れ安となり1.22台前半まで下落。29日は、ドル売りの流れに1.22台後半まで上昇するも、利食い売りや、株式市場の軟調化を受け再び1.22台前半まで下落。その後は年末年始を控えた動意に欠ける展開となり、1.22台半ば付近での小動きとなった。30日は、英国にて新たな新型コロナウイルスワクチンが承認されたこと、英EUの通商合意を背景に、リスクセンチメントが改善し、ユーロが買われる展開となり、一時週高値となる1.2310をつける。その後は、ドルショートカバーに1.22台後半まで反落。その後は薄商いの中、徐々にドル売りが優勢の展開から、ユーロ/ドルは下げ幅を縮小し、1.22台後半で推移。31日は、昨日の高値である1.2310に迫るレベルである1.2309まで戻す場面も見られたが、ユーロ/ポンドの下落や、利益確定の売りの流れに値を下げる展開となり、1.22台前半にて推移。レーンECB理事による「ユーロ相場の動向を極めて注意深く監視している」とのユーロ高を牽制する発言もあり、結局1.2218で越週となった。

今週のユーロ/ドル相場は、軟調推移を予想。先週は週央にかけて、懸念材料であった英EUとの自由貿易協定(FTA)が承認となり、リスクセンチメントが改善し、ユーロ/ドルは上昇した。しかし、足元の新型コロナウイルス変異種の感染拡大や、それに伴う経済行動の制限、ECBの根強い追加緩和観測、欧州当局者のユーロ高牽制姿勢など、ユーロ/ドル下落を想起させる材料も燻っている状況。よって、今週はユーロが売られやすい展開になると予想。今週は、ジョージア州の決選投票や次期米大統領の正式決定、米12月雇用統計の発表など米国のイベントが目白押しであり、ボラティリティが高まる場面も想定される。ただ、引き続きドルの過剰感が市場のテーマであり、中長期的には、コロナウイルスが収束しない限り、ドル売りの展開が継続するであろう。

### (3)先週末までの相場の推移

先週(12/28~1/1)の値動き: (対ドル) 安値 1.2179 高値 1.2310 終値 1.2218  
(対円) 安値 126.05 高値 127.17 終値 126.22



(資料)ブルームバーグ

### 3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.3570 ~ 1.3800 140.30 ~ 143.00 円

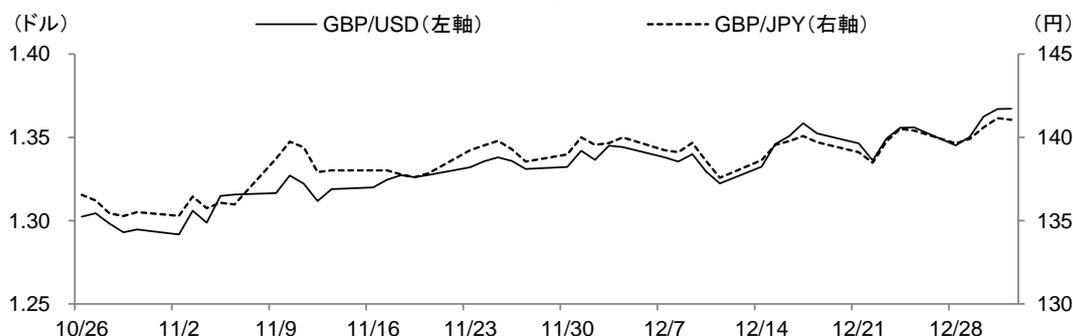
#### (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週初に下落したものの、週後半に上昇し対ドルで年初来高値を示現。対ユーロでも先週のEUR/GBP安値を更新する展開。週初28日は英国休場。英ポンドは対ドルで1.35台前半、対円で140円台前半でオープン。前週末のFTA合意を受けた買いは続かず調整の動きが強まり、対ユーロでの売りやロンドンフィクシングに向けた全般的なドル買いの動きも相まって、対ドルで週安値となる1.3429まで下落。一方で、米トランプ大統領による経済対策法案署名を受けた良好なリスクセンチメントを背景としたドル売り地合いに下げ止まり、翌29日には一時1.35台を回復。EU加盟各国政府は英国との通商協定を正式承認、EU大統領と欧州委員長は翌朝に英国との貿易協定に署名との報道も、これは織り込み済みの内容で特段の反応なし。30日も全般的なドル安の流れが継続。オセアニア通貨やユーロが年初来高値を更新する動きに合わせ、英ポンドも1.36乗せ。同日深夜、EUと合意した通商協定を英議会在承認。月末31日もこれを好感したことに加え、アジア株堅調の中コモディティ通貨を中心としたドル売り基調が続き、対ドルでは2018年5月以来となる1.3686の高値を示現。その後は月末フローに上下しながら、対ドルでは1.36代後半、対円では141円台前半で越週した。尚、EUR/GBPは週末に向けてユーロ上昇の調整の動きが強まり、再度0.90を割り込むと0.8933の安値を示現し、同レベルの安値圏でクローズ。翌年1月1日は各国休場。

今週の英ポンド相場は、底堅い展開を予想。英国では各地域でのロックダウンにも関わらず、新型コロナウイルス変異種の感染拡大に歯止めがかからず新規感染者数は連日5万人を超え過去最多を更新しており、これを受けロンドン含む一部地域で休暇明けの小学校閉鎖といった規制措置強化が予定されており、また週末にはジョンソン首相がさらなる制限強化を示唆。しかしながら、マーケットはこれを嫌気する動きとは現状なっておらず、先週英ポンドは、週初こそ前週のFTA合意を受けた上昇からの調整の動きとなったが、結局週後半に上昇し、対ドルで年初来高値を更新する動きとなった。これは、主要通貨ではコモディティ通貨の上昇が目立っており、株高、リスクオンに反応した「ドル安」の動きの結果と言える。英国では30日、オックスフォード・アストラゼネカワクチンを政府が承認、1月4日から接種が始まる予定との報道もあり、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は収束が見えないが、各国でのワクチン期待からか、グローバルにリスクセンチメントが悪化する動きとはならず、むしろ米株は年初来高値を更新して年末を迎える展開となっている。また、12月31日現地時間深夜、EU離脱移行期間終了。離脱後の英経済に関する課題は残るものの、不透明感の払拭ということ自体が英ポンドにはポジティブな材料となっているといえる値動き。テクニカルにも、2020年何度も止められていた1.35付近のレジスタンスを明確に上抜けており、1.40が視野に入る格好。先週末はユーロが大きく調整しており、既に安値圏にあるドルの調整には警戒が必要であるが、足元のセンチメントが継続する限りはドル安にサポートされ英ポンドも底堅い動きとなる。

#### (3)先週末までの相場の推移

先週(12/28~1/1)の値動き: (対ドル) 安値 1.3429 高値 1.3686 終値 1.3662  
(対円) 安値 139.48 高値 141.26 終値 141.06



(資料)ブルームバーグ

## 4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

(1) 今週の予想レンジ: 0.7600 ~ 0.7800 78.50 ~ 80.50 円

### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は上昇する展開。週初28日豪ドルは0.7613でオープン。トランプ米大統領が新型コロナウイルス追加経済対策法案に署名したことが報じられ、追加の財政出動が決定したことや連邦政府機関の一部閉鎖も回避されたことでリスクオンムードとなった。豪ドルはアジア時間に0.76丁度を挟んで上下し、ロンドン時間早朝に0.7622を付けた。ただしロンドンfixingにかけて大きくドル買いとなり、0.7560近辺へ下落。その後は、米株価が堅調に推移すると豪ドルも0.7580近辺まで戻した。翌29日は前日からのリスクオンムードを引き継ぎ、アジア時間・ロンドン時間を通して上昇した。NYダウ平均が最高値を更新すると豪ドルも連れ高となり0.7624まで上昇。米下院でトランプ米大統領が600ドルから2000ドルに修正を求めている直接給付金額について可決されたことで期待感が高まった。しかし、共和党上院のマコーネル院内総務が給付金額に関する法案の採決に反対していることや、午後米株価が戻り売りとなったことで、豪ドルは0.7610近辺まで上昇幅を縮小させた。30日は朝方から豪地場銀行系のAUD/NZDやAUD/USD bidが並ぶ中、0.76丁度近辺から0.76台後半へ上昇。イギリスで3つ目のワクチンが承認されたことや、中国製のワクチンが間もなく承認されるとの観測から、株価が堅調に推移し、豪ドルは年初来高値を更新した。31日は前日からの流れを引き継ぎ、豪ドルは上昇、一時週高値である0.7743まで上昇した。その後は若干上昇幅を縮小させ、結局0.76台後半で越週した。

今週の豪ドル相場は底堅い推移を予想。RBAは、11月会合で過去最低水準まで政策金利を引き下げたうえで、追加緩和への期待感を残していたものの、12月会合では政策を据え置き、豪州経済は回復しつつあるという見方を示した。実際に12月に公表された豪経済指標では労働環境の改善や消費回復への兆しが確認できている状況下、豪ドルは早期追加緩和観測の後退と、景気回復への期待感から確りとした推移を想定する。また、米国では追加経済対策が合意されたものの、腰折れした消費者心理を完全回復させるには材料不足と考えられ、景気下支えのためドルの過剰供給と低金利環境は当面継続される見込み。根強いドル安圧力は豪ドル相場のサポート材料となるであろう。一方で目下、欧州を中心に感染を広げているコロナ変異種だが、豪政府は海外からの入国制限強化など、感染封じ込めに動いている。世界各国でも同様の動きが取られているが、再び世界的な感染拡大となり、過度なリスクオフによるドル買いが強まる展開には警戒しておきたい。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(12/28~1/1)の値動き: (対ドル) 安値 0.7559 高値 0.7743 終値 0.7693  
(対円) 安値 78.48 高値 79.79 終値 79.47



(資料)ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。